

別紙 1

論文審査の要旨

| | | | |
|---|----------------------------------|-----|-------|
| 報告番号 | ㊦・乙 第 2935 号 | 氏 名 | 鈴木 達矢 |
| 論文審査担当者 | 主査 後閑 武彦 副査 木内 祐二 副査 泉崎 雅彦 | | |
| (論文審査の要旨) <p>骨形成促進作用のあるテリパラチド製剤 (PTH 製剤) が人工膝関節置換術 (TKA) 術後コンポーネント周囲骨密度に及ぼす変化を DXA 法により評価した。骨粗鬆症と診断され PTH 製剤を導入したセメントレス TKA 術後患者のうち、導入前と術後 6 か月、12 か月の評価が可能であった 17 例 22 膝(全例女性)を対象とした。また同時期に測定を行ったコントロール群を測定した。その結果、6 か月経過で投与群のほうがコントロール群よりも大腿骨顆部後方、脛骨外側領域において有意に骨密度の上昇を認め、同様に 12 か月経過で大腿骨顆部後方、脛骨遠位領域で有意に骨密度の上昇を認めた。その他の領域でも投与群のほうがコントロール群を上回る結果となった。PTH 製剤は骨粗鬆症患者が TKA 術後にコンポーネント周囲骨密度の維持または改善するための合理的な治療選択肢である。</p> <p>本論文は PTH 製剤が TKA 後の骨密度に与える影響に関する新しい知見であり、学術上価値があり学位論文に値すると判定した。</p> <p>論文題名 : Teriparatide Administration Increases Periprosthetic Bone Mineral Density After Total Knee Arthroplasty: A Prospective Study</p> <p>ヒト副甲状腺ホルモン誘導体 (テリパラチド製剤) 投与によって人工膝関節周囲骨密度は上昇する : 前向き研究</p> <p>掲載雑誌名 : <i>The Journal of Arthroplasty</i> Vol. 33 No.1 P.79-85 2018 年 1 月掲載</p> | | | |

(主査が記載、500 字以内)